

武闘祭が開催されていたのは、三大国の一つサウニアルの西側にある都市の一つだった。丁度、ツヴァイテル大陸の真ん中辺だ。

世界規模の催しだから、大陸の中央で開催、というわけではないらしい。

先ほどまでいた円形闘技場が武闘祭をやるにいい塩梅だったそう。闘技場自体は武闘祭のために新設されたわけじゃなくて、最初からあったもので歴史も古いらしい。もともとはサウニアルの所有物だった。それを派遣協会が買い取ったのだ。派遣協会に売り渡す際には、サウニアル国内でも反対の意見が結構あったらしい。サウニアルは三大国で一番歴史の古い国だ。我がもの顔で振舞う派遣協会に反感を覚えたとしても不思議はない。俺たちに逃亡先のアてはない。町を出て、街道を外れて、道なき道を闇雲に突き進んだ。どうしたもんか、とも思った

が、とりあえず今は、派遣協会の追手を振り切るのが先決である。向こうに村が見えた。あそこで色々装備を整えるところか。俺たちは村へ入っていった。

村には、派遣協会の追手が来ている様子はなかった。そりやそうだ。馬を飛ばしたとしても、ここへ着くにはあと四、五時間はかかる。陸上で俺たちより速い生き物なんているわけがない。

村へ着いた俺たちは、まず強盗をした。しようがないだろ。着の身着のまままで逃げたんだ。金なんかない。

まあ、強盗といたって簡単なものだ。適当に民家に入って、

「勇者だ、金を出せ！」

とやればOKである。この世界、どこにいても勇者への恐怖は根強いのだ。

自己弁護するようだが、強盗したといっても、ほんの少しの金や食料、衣類をもらっただけだ。決して、飢餓に苦しむ

人間から作物を奪ったわけでもなければ、よぼよぼのじいさんから種粃を奪ったわけじゃない。

強盗を終えて、俺たちが次にしたこと
は強盗である。

あと、他にしたことといえば強盗だな。
そうだ、そういえば強盗なんかもした
な……。

いや、この先、長い逃亡生活が予想さ
れるんだ。金や物資はあるにこしたこと
はないだろう。

俺たちは村の一軒一軒に回覧板を回す
ように、行く先々で強盗をした。

しかし、こういうことするから嫌われ
るんだろうな、俺たちは。

村を出た俺たちは、手に入れた服に着
替えた。念のため、髪を切る。長髪だっ
たイレミアスとランプレヒトは短髪に、
もともと髪が短かった俺は坊主頭となっ

た。剣でやったもんだから、随分と不恰
好な坊主になったが、まあしょうがない。
とりあえず今は遠くにいくことが先決
だ。もとより収容所暮らしで行く当ても
ない。ただ、ひたすら真っ直ぐ、山間部
を北上することにした。俺の案にイレミ
アスもランプレヒトも賛成した。正確に
いえば、意見がなかっただけだと思うが。
何せ世間知らずの勇者の中でも、イレ
ミアスはほとんど収容所から出ることは
なかったし、ランプレヒトもこなした派
遣業務の数はそれほど多くない。俺がパ
ーティーのリーダーになるのも当然だっ
た。

ツヴァイテル大陸の中央を南北に走る
ルークグラット山脈は険しい。普通の人
間ではおいそれと入ってこれないだろう。
勇者逃亡の報せが大陸全土に伝わるのに
およそ十日はかかるだろうと、俺は踏ん
でいた。その十日間の間はひたすら北を

目指すのだ。